

館報

はた



令和4年11月1日現在

世帯数	6,332戸
人口	15,446人
男	7,515人
女	7,931人

鷺沢風穴か!? 石積み発見!



私は安曇稲核地区の出身で、5年前に波田に転居してから波田の風穴のことが気になっていました。これまでも梓川筋の風穴調査を実施してきた一環として、鷺沢風穴の場所を突き止めたという気持ちも強くなりました。波田町史にもその所在地についての記載はなく、鷺沢周辺を歩いても判明しませんでした。

そこで、2年前から「幻の鷺沢風穴探査」を開始しました。所有者は、明治38年発行の「長野県風穴調」（長野県に登録された正式の蚕種貯蔵風穴一覧）に記載されているので、波田地区内での聞き取りから開始しました。多くの皆さんに情報を頂きましたが、約120年前のことについては、なかなか核心に触れる結果は得られませんでした。

そんな中、令和4年7月に安曇・大野川地区の歴史愛好家の福島さんから、「島立・沙田神社の奥社の調査のために鷺沢に登るよ」との話を聞き、「もし途中で風穴らしき石積みを見たら連絡をください」とのお願いをしました。

その後当日の夕方、福島さんから「風穴見つけたよ!」と、うれしい電話を頂きました。

そして、8月5日に当地を訪れました。鷺沢の中腹に位置するその場所は、風穴霧が漂って、木立に囲まれた周囲の景観とマッチした別天地の

北原団地

分譲の頃の思い出

先日、書棚を整理していると、数冊のアルバムが出てきました。その内の一冊が、北

霧閉気に感じられ、しばらく立ち尽くしていました。

石積みの規模(横5・5m×奥行6・5m)、形状などを確認し、外気温18・5度、地中温度は13・7度などのデータが計測されました。一部、崩落が進行しているものの、この地が蚕種貯蔵に使用した風穴と思われるものでありと推測されました。

今後については、何らかの形で後世に残る形に出来ればよいと考えています。

(稲核風穴保存会長：有馬 正敏)



歴史を感じる石積み

原団地分譲開始の頃に現地へ撮った写真を集録した50年近く前のアルバムです。当時私の勤務先は、東京に本店がある松本支店でした。住居は、城山公園のふもとにある家族寮(社宅)です。各県に支店があり、転勤の多い会社でした。さらにその頃から目立ち始めたのは、単身赴任者の増加でした。私も10年後には単身赴任をすることは確実だと思いはじめました。「これからその対応策を考えなければ」と、手をこまねいている期間が半年を過ぎた昭和51年(1976年)3月のことです。長野県企業局の新聞広告で「波田北原団地の宅地分譲」を知ったのです。妻の実家が波田の三溝で、頻繁に出掛けてはお世話になっていたので、下島駅と妻の実家の周囲にまとまる一族の家屋敷風景だけが私のもっている波田町に関する知識の全てだったのです。

分譲を知った次の日曜日、松本駅から上高地線に乗り、波田駅で下車。徒歩で着いた団地の広大な面積、団地内の道路幅も広く総じて好印象でした。雨の日も同じルートを往復しましたが、印象は変わりませんでした。

また、別の日に、波田町役場を中心にした地すく学校、中学校、図書館、運動施設、商工会館等が徒歩10分程度の距離にあり、満足しました。分譲を受けた区画も決まったので、必要書類を整えている時、この団地で本当にいいのかという疑念がわいてきたのです。翌日役場へ行き、団地について問い合わせると、職員の方から「波田病院をご覧になりましたか?」と聞かれたのです。医療施設も近くにあるのかとわかった瞬間、私の気持ちは分譲を受け入れる決意に戻りました。

「思い出」は、書棚整理というきっかけによって、過去の記憶を呼び戻してくれました。懐かしさを感じながらも、これからの住み慣れた地域で生活していきたいと思っています。



住宅が建ちだした当時の北原団地(写真は昭和52年頃)

三神社祭典と風祭り

今年の三神社祭典は、9月18日を宵祭り、19日が本祭りとして開催されました。



コロナ禍のため、今年も氏子総代による神事のみ祭典となりました。露天もなく、浦安の舞いも事前練習が困難のため中止を余儀なくされ、寂しい祭典となってしまいました。そんな中で、恒例だったお祭り青年団によるイベントは境内で行われなかったものの、寄付を集めていただけで10分程度の打ち上げ花火を計画してくれたので、悪いムードを吹き飛ばしてくれたような気持ちになりました。

今年も、祭典の準備をする町会当番だったこともあり、氏子総代の指導の下、神社のしめ縄を編んで新調したこともあり、町会が丸と丸と祭典を開催できたと感じました。

大正モダン建築 旧波田町役場庁舎

市役所波田支所に初めて出かけた数年前、用事を済ませ、駐車場まで走り寄って見上げた「第五区公民分館」の表札の

また、秋の祭典を迎える前の行事として、風祭りという祭事も開催しています。波田地区の中では、いくつかの町会でこの祭事が行われていると聞いています。22区町会では、8月21日に開催され、氏子総代をはじめ、農家組合員、町会役員、公民館役員の総勢11人が参加して、公民館南側の外壁に祀つてある祭壇の前で祈願しました。

風祭りという祭事は、立春から二十日経った時期に、台風等の風水害が多いとされていて、その影響を受けて農作物に被害が及ばない様に、風害防除を目的として祈願する祭事と言われています。

一般的に秋祭りは、農作物の収穫に感謝し、奉納することで神様をもてなす意味があり、その前に風祭りで被害を防ぐ祈願をするといった伝統行事がこれからも町会で受け継がれていくことを願っています。



ロマンに満ちた旧波田町役場庁舎

建物にロマンを感じ、ずっと興味をもっていました。

正面に三角屋根と尖塔、バルコニーがあり、木枠のガラス窓が美しく並ぶ旧波田町役場庁舎です。

大正14年(1925年)に建てられ、今年97歳の大正モダン建築。県内でも例のないL字型平面の木造2階建て、角が正面にあるので高く大きく見えて奥行のある佇まいです。今回、きしむドアを開けて2階に上がり、床の強度に少し不安を感じながら見学させていただきました。広々とした旧議会場には、縄文土器や民俗資料、生活道具、農耕器具などが時代を超え保管されています。

充実していたのは養蚕にかかわる道具です。波田の大地が桑畑だった大正期から戦前

まで農家の主力は養蚕で、桑切り機、糸取り車、繭とり車、糸より車、機織り機など活躍していた当時から想像できます。

今年も毎年、波田小学校3年生がークラスずつ見学に訪れ、昔の暮らしに興味深く学び、見学しております。

歴史に詳しい方々の話や過去の新聞記事、講演会記録を読み、今この場所に現存していることに感動しています。

二度の移築に耐え、歴史愛好会やまちづくり協議会、公民館、有志の方々が保存を模索してきたことを知りました。

今後、耐震強度を備え、魅力的な文化施設として、他の展示物も時代ごと一堂に会し、波田村、波田町時代の多くの人々の記録を留め、広く波田地域の歴史を学ぶ拠点になる事を期待したいです。

そして、个性的でレトロな大正モダン建築が波田の名所となつて、だれもが立ち寄りたくなる身近な施設としての活用を、若い人たちがはじめ関心が高まることをわくわくしながら思い描いています。



皆さんは、障がい者卓球をご存じですか。視覚障害

者を中心として、音声パソコンの指導者と朗読ボランティア数名で、月一度保健センターで行っています。この卓球は、スルーネットピンポンといって、ルー尔的には優しいです。(アイマスクを付けなくても良い等)

一般的な卓球とはだいぶ違い、1枚板状のテーブルで双方のエンドラインとサイド(60cm)にフレームという枠を取り付け、ある程度までボールの落下を防ぎ、また、このフレームで囲まれた競技者側のエリアで主にプレーを行うようにもなっています。ネットをテーブルから上に42mm離して張ります。ボールは常に転がし、ネットの下を通します。卓球の玉の中に金属粒が入ったボールを用い、そのボールがテーブル上を転がることで、出る音を頼りに打ち合う競技です。ラリーが続くと運動不足解消にもなり、とても楽しい競技です。

月に1回、2時間程プレーを楽しんでおり、コロナ禍ではありますが会員のふれあい、近況等を話し合うなど、とてもいい機会となっています。